

MAP経営とfreeeがデータ連携

経営シミュレーション効率化

MAP経営（東京都中野区）とfreee（同品川区）は、経営シミュレーションシステム「MAP経営シミュレーション3（MAP3）」と、経理データをリアルタイムで把握できる「クラウド会計ソフトfreee」のデータ連携を開始した。これによりクラウド会計ソフトの利点であるデータのリアルタイム性を経営シミュレーションソフト上で生かし、税理士・会計事務所が顧問先の目標達成支援を

より効果的に行うことが可能になるという。

MAP経営が提供するMAP3は中期計画・単年度計画、予算・実績管理などの機能を搭載したシステム。データの精度と操作性に優れ、全国で約1000の税理士・会計事務所が経営シミュレーションツールとして利用されている。

一方、freeeが提供するクラウド会計ソフトは、人工知能技術に基づいた自動仕訳機能やオ

ンラインバンキングサービスからの明細取り込み機能を搭載しており、中小企業は簡単に経理業務を行える。また税理士・会計事務所が顧問先の同意を得た上でアクセスし、クラウド上で仕訳帳や各種リポートを確認・編集することもできる。

これまで経営分析の元となる財務データはサイクルが早くても1カ月ごと（月次決算）、場合によっては四半期ごとに確定されることが多く、税理士・会計事務所が企業の「今」を反映した経営アドバイスを行うことは難しかった。